

司書に関する科目（平成26年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
80010	80011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	高橋 英子	いずれか一つ履修
80010	80012	〃（月曜Ⅳ限）						
80030		図書館概論	2	30	1	前期	孫 誌銜	
80040		図書館制度・経営論	2	30	1・2	後期	孫 誌銜	
80060		図書館情報技術論	2	30	1・2	前期	津谷 篤	
80070		図書館サービス概論	2	30	1	前期	孫 誌銜	
80080		情報サービス論	2	30	1・2	前期	孫 誌銜	
80090	80091	情報サービス演習A	1	30	2	後期	孫 誌銜	2月開講
80090	80092	情報サービス演習B						
80120		図書館情報資源概論	2	30	1	集中	松林麻実子	9月開講
80130		情報資源組織論	2	30	1	後期	新藤 透	
		情報資源組織演習	2	60	2	通年	新藤 透	
		文献情報学	2	30	1・2	前期	新藤 透	

（注）「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

司書に関する科目（平成27年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
80010	80011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	高橋 英子	いずれか一つ履修
80010	80012	〃（月曜Ⅳ限）						
80020		図書館概論	2	30	1	前期	孫 誌銜	
80030		図書館制度・経営論	2	30	1・2	後期	孫 誌銜	
80040		図書館情報技術論	2	30	1・2	前期	津谷 篤	
80050		図書館サービス概論	2	30	1	前期	孫 誌銜	
80060		情報サービス論	2	30	1・2	前期	孫 誌銜	
80070		児童サービス論	2	30	1・2	集中	千 錫烈	2月開講
		情報サービス演習A	1	30	2	後期	孫 誌銜	2月開講
		情報サービス演習B						
80100		図書館情報資源概論	2	30	1	集中	松林麻実子	9月開講
80110		情報資源組織論	2	30	1	後期	新藤 透	
		情報資源組織演習	2	60	2	通年	新藤 透	
80130		文献情報学	2	30	1・2	前期	新藤 透	

（注）「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

司書教諭に関する科目

科目コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
80210	学校経営と学校図書館	2	30	1・2	集中	杉山 悦子	9月開講
80220	学校図書館メディアの構成	2	30	1・2	後期	新藤 透	
80230	学習指導と学校図書館	2	30	1・2	集中	伊藤 弘昭	2月開講
80240	読書と豊かな人間性	2	30	1・2	集中	千 錫烈	[司]「児童サービス論」で相互乗入読替 2月開講
80250	情報メディアの活用	2	30	1・2	後期	孫 誌銜	

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80010	80011 ~12	生涯学習概論	2	高橋 英子	前期	

【達成目標】

生涯学習の理論や歴史的動向、法制度に関する基礎的な理解を深める。
生涯学習の意義や理念を具体的な実践事例に照らして考える力を身に付ける。

【授業内容・方法】

授業は講義形式で行う。生涯学習の基礎的な概念や法令、施策の動向や社会教育行政、学校教育・家庭教育との関連、社会教育施設、専門的職員の役割、生涯学習活動への支援等について概説する。

【授業計画】

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. オリエンテーション・生涯学習社会の意義 | 9. 女性と生涯学習 |
| 2. 生涯学習と現代社会 | 10. ボランティア活動と市民活動 |
| 3、4. 生涯学習の理念①② | 11. 学校・家庭・地域の連携協力 |
| 5. 生涯学習を支える社会教育 | 12、13. 生涯学習の内容・方法・形態①② |
| 6、7. 社会教育行政①② | 14. 学習への支援と学習成果の評価 |
| 8. 専門施設としての図書館と博物館 | 15. まとめ ※関係法令は講義内で随時触れる。 |

【テキスト】

笹井宏益・中村香著『生涯学習のイノベーション』玉川大学出版部、2013、(価格 2400 円＋税)
その他、必要に応じて関連する資料やレジュメを適宜配布する。

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

生涯学習は理論や法令を覚えるだけでなく、学びへの主体的参加が大切です。講義では実践事例を紹介し、皆さんの経験や考えも参考にします。具体的なイメージを持って生涯学習の理解を深めましょう。

【評価方法】

テスト (50%)、ミニレポートの提出 (30%)、授業への参加度 (20%)。授業は 2/3 以上の出席が必要。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80020		図書館概論	2	孫 誌銜	前期	

【達成目標】

この講義は図書館について全般的な基礎知識を得ることを目的とします。
【図書館とはなにか】を学ぶためのいわば入門的な科目であり、司書課程全体への案内の意味ももちます。講義は図書館の意義・種類・機能と現代の各種図書館の状況及び課題などを取り上げます。

【授業内容・方法】

【授業計画】

- | | | |
|-----------------------------|-----------------|------------------|
| 1. オリエンテーション及び
図書館の現状と動向 | 5. 日本の図書館の歴史 | 11. 図書館職員 |
| 2. 図書館の構成要素と機能
及び図書館サービス | 6. 公共図書館の機能と役割 | 12. 図書館の関係法令 |
| 3. 図書館の社会的意義 | 7. 学校図書館の機能と役割 | 13. 図書館協力とネットワーク |
| 4. 西洋の図書館の歴史 | 8. 大学図書館の機能と役割 | 14. 図書館の課題 |
| | 9. 専門図書館の機能と役割 | 15. 展望及びまとめ |
| | 10. 国立図書館の機能と役割 | |

【テキスト】

- ・高山正也編. 図書館概論 (現代図書館情報学シリーズ), 樹村房, 2012
- ・二村健著 図書館の基礎と展望 学文社 2011
- ・今 まど子編「図書館学基礎資料 第11版」樹村房, 2012

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

社会の動きに関心を持ち、新聞、関係雑誌などについても常に目を通す習慣をつけ、図書館が果たす社会的役割について考えましょう。

【評価方法】

- 1) テスト (50%)、レポートの提出状況 (30%)、受講態度 (出席状況も含む) (20%) の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない場合は単位を与えない。
- 3) 課題未提出者には単位を認めない。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80030		図書館制度・経営論	2	孫 誌街	後期	

【達成目標】

本講義では、生涯学習社会、高度情報社会における理想的な図書館運営を目指して、図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策、図書館行政について学びます。また、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態の現状等の諸側面から理解することを目的とします。

【授業内容・方法】

【授業計画】

- | | | |
|---|--|----------------------|
| 1. オリエンテーション | 6. 図書館サービス関連法規（子ども読書活動推進法、文字・活字文化振興法）の解説 | 11. 図書館の施設・設備(1) |
| 2. 図書館の使命・目的、図書館経営の意義 | 7. 図書館政策（国、地方公共団体） | 12. 図書館の施設・設備(2) |
| 3. 図書館業務の理論と実際 | 8. 図書館の組織（図書館協議会、ボランティア組織との連携） | 13. 図書館のサービス計画と予算の確保 |
| 4. 図書館をめぐる法体系(1)-図書館法および他館種の図書館に関する法律（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準等）の解説 | 9. 図書館の職員 | 14. 図書館ネットワークの形成 |
| 5. 図書館をめぐる法体系(2)-図書館法および他館種の図書館に関する法律（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準等）の解説 | 10. 新図書館計画 | 15. 総まとめ |

【参考書】

今まど子『図書館学基礎資料』第11版 樹村房 2013
永田治樹『図書館経営論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ-2）日本図書館協会 2011
柳与志夫『図書館経営論』（図書館情報学シリーズ 2）学文社 2007
日本図書館協会『市民の図書館 増補版』1976、『公立図書館の任務と目標 解説』1989

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

図書館がどのように運営されているか、図書館の活動をマネジメントの視点からとらえ、授業で学んだことを自分の経験で確かめるために、居住地の公共図書館に登録し、利用することを勧めます。

【評価方法】

- 1) テスト（50%）、レポートの提出状況（20%）、受講態度（出席状況も含む）（30%）、の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。
- 3) 課題未提出者には単位を認めない。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80040		図書館情報技術論	2	津谷 篤	前期	

【達成目標】

本講義では、図書館業務を行う上で必要な情報技術と、それをささえるコンピュータ、ネットワーク、インターネットの基礎を理解することを目的とする。

【授業内容・方法】

コンピュータ、ネットワーク、インターネット基礎。講義はスライド、プリントを用いて行う。毎回の講義内で、講義内容に関して記述してもらう。または、課題を行ってもらう。

【授業計画】

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 図書館におけるコンピュータの役割 | 10, 11. データベース |
| 2, 3, 4. コンピュータの基礎 | 12, 13. 検索エンジン |
| 5. 図書館におけるインターネットの役割 | 14. 電子資料 |
| 6, 7, 8. インターネットについて①②③ | 15. 最新の情報技術と図書館 |
| 9. 図書館におけるデータベースの役割 | |

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

本講義で扱う内容全てが図書館業務で直接必要であるとは無いのだが、だからこそ、知識を持っている者、持っていない者で業務に差が生じると考える。これを意識して食欲に取り組んで欲しい。

【評価方法】

毎回の講義内での提出を出席の代わりとする。提出が2/3に満たない場合は単位を与えない。評価は「講義最終日に出す課題」と、「毎回の提出物」によって行う。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80050		図書館サービス概論	2	孫 誌銜	前期	

【達成目標】

公共図書館を中心に図書館利用サービスの活動について概説し、利用者の要求に迅速かつ的確に対応するための図書館サービスの在り方について学ぶ。

【授業内容・方法】

【授業計画】

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. オリエンテーション及び図書館サービスの意義・概要 | 9. 課題解決支援サービス |
| 2. 図書館サービスの理念・原則 | 10. 利用対象者別サービス：児童サービス、ヤングアダルトサービス |
| 3. 図書館サービスの種類 | 11. 利用対象者別サービス：一般成人向けサービス、高齢者サービス |
| 4. 館種別の図書館サービスの特徴 | 12. 利用対象者別サービス：障害者・アウトリーチサービス |
| 5. 図書館サービスと個人情報：利用者に対する接遇・コミュニケーション | 13. 図書館間協力体制 |
| 6. 資料提供サービス：閲覧・貸出サービス | 14. 図書館サービスと著作権 |
| 7. 資料提供サービス：読書案内・リクエストサービス | 15. まとめ |
| 8. 情報提供サービス：レファレンスサービス | |

【テキスト】

宮部頼子編著. 図書館サービス概論 (現代図書館情報学シリーズ), 樹村房, 2012

参考書: 「図書館情報学ハンドブック. 第2版」丸善, 1999

【受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)】

図書館で行なわれる各種のサービスについて理解しながら積極的に図書館を利用することを勧めます。管理者と利用者の両方の視点から図書館サービスはどうあるべきか考えていきます。

【評価方法】

- 1) テスト (50%), レポートの提出状況 (20%), 出席率・授業態度 (30%) の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない場合は単位を与えない。
- 3) 課題未提出者には単位を認めない。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80060		情報サービス論	2	孫 誌銜	前期	

【達成目標】

図書館で提供される情報サービスについて考察し、文献等の記録情報のサービスを中心に、公共図書館における情報サービスのあり方について理解することを目標とします。図書館員として幅広い図書館サービスができるような資質を身に付けるため、情報サービスとは何かを理解し、多様な情報源から、利用者のニーズにあった情報を的確に提供する情報サービスについて学びます。

【授業内容・方法】

【授業計画】

- | | | |
|---------------------|------------------------|---------------------------|
| 1. 情報サービスの概要 | 6 情報検索とサービスの展開 | 10. 情報源の種類と特徴—案内指示的資料 |
| 2. 図書館における情報サービスの基礎 | 7 情報サービスの組織と資源 | 11. 情報源の種類と特徴—事実解說的資料 |
| 3. 情報サービスの展開 | 8. 情報探索行動とレファレンス・プロセス | 12. 各種情報源の特徴と利用法—百科事典類 |
| 4. 情報サービスのニーズの把握と対応 | 9. 質問分析とレファレンスインタビュー役割 | 13. 各種情報源の特徴と利用法—専門辞典類 |
| 5. 情報サービスの実際 | | 14. 各種情報源の特徴と利用法—各種データベース |
| | | 15. 総まとめ |

【テキスト】

渋谷嘉彦[ほか]編. 情報サービス論 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-5), 東京, 日本図書館協会, 2012. 09

【受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)】

本講義は図書館サービスとして提供されている「情報サービス」について司書はどのような資質を持つべきか、どのようにサービスを行うべきかについて考えます。図書館資料の正しい使い方、正しい利用のためできる限り図書館を利用することを勧めます。

情報サービス概説と演習をセットでとること。このためにも、2年生での履修を勧めます。

【評価方法】

- 1) テスト (50%), レポートの提出状況 (20%), 受講態度 (出席状況も含む) (30%) の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない場合は単位を与えない。
- 3) 課題未提出者には単位を認めない。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放																		
80070		児童サービス論	2	千 錫烈	集中 (2月)																			
<p>【達成目標】 乳幼児や青少年は成人とは異なり、その年齢・発育段階に合わせたきめ細かいサービスを提供しなければならない。本科目では、子どもの心身の発育や年齢によって異なる読書心理についての基礎知識を理解した上で、児童サービスの意義、方法、実際を理解することを目標とする。</p> <p>【授業内容・方法】 本講義では、子どもにとっての読書の意義を児童サービスの歴史や読書心理を概観しながら明確にしていく。「読み聞かせ」や「ブックトーク」などの具体的なサービス方法についても演習を通じて学んでいく。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 児童サービスの意義と役割</td> <td>6. 児童資料①絵本・児童文学</td> <td>11. 「ストーリーテリング」</td> </tr> <tr> <td>2. 児童サービスの歴史の変遷</td> <td>7. 児童資料②知識の本・レファレンス資料</td> <td>「パネルシアター」</td> </tr> <tr> <td>3. 子どもの発育と読書</td> <td>8. 児童資料の選書基準と組織化</td> <td>12. 演習：お話し会</td> </tr> <tr> <td>4. 子どもの読書の現状と読書の効用</td> <td>9. 児童コレクションの形成</td> <td>13. 広報活動としての「ブックスタート」</td> </tr> <tr> <td>5. 児童サービスの種類と内容</td> <td>10. 「読み聞かせ」「ブックトーク」</td> <td>14. 学校・学校図書館との連携・協力</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. 「ヤングアダルトサービス」</td> </tr> </table> <p>【テキスト】 レジメを配布するため、テキストは指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 講義だけではなく、グループディスカッションやDVDの観賞や「読み聞かせ」の演習なども行っていくので積極的に参加してほしい。</p> <p>【評価方法】 授業への参加度（30%）、授業中のミニレポート（30%）、最終レポート（40%）</p>							1. 児童サービスの意義と役割	6. 児童資料①絵本・児童文学	11. 「ストーリーテリング」	2. 児童サービスの歴史の変遷	7. 児童資料②知識の本・レファレンス資料	「パネルシアター」	3. 子どもの発育と読書	8. 児童資料の選書基準と組織化	12. 演習：お話し会	4. 子どもの読書の現状と読書の効用	9. 児童コレクションの形成	13. 広報活動としての「ブックスタート」	5. 児童サービスの種類と内容	10. 「読み聞かせ」「ブックトーク」	14. 学校・学校図書館との連携・協力			15. 「ヤングアダルトサービス」
1. 児童サービスの意義と役割	6. 児童資料①絵本・児童文学	11. 「ストーリーテリング」																						
2. 児童サービスの歴史の変遷	7. 児童資料②知識の本・レファレンス資料	「パネルシアター」																						
3. 子どもの発育と読書	8. 児童資料の選書基準と組織化	12. 演習：お話し会																						
4. 子どもの読書の現状と読書の効用	9. 児童コレクションの形成	13. 広報活動としての「ブックスタート」																						
5. 児童サービスの種類と内容	10. 「読み聞かせ」「ブックトーク」	14. 学校・学校図書館との連携・協力																						
		15. 「ヤングアダルトサービス」																						

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放															
80080		情報サービス演習 A	1	孫 誌銜	後期																
<p>【達成目標】 情報サービス論で学習したレファレンスサービスとレファレンスブックについての知識に基づき、各種の図書館で受け付けた参考質問について各種資料を用いて回答できるように習熟することを目標とします。</p> <p>【授業内容・方法】</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 図書館における情報サービスとは</td> <td>6. ことば・成句の情報源について解説</td> <td>11. 中間復習及び小テスト</td> </tr> <tr> <td>2. レファレンスサービスの概要</td> <td>7. 歴史・日時情報の探索</td> <td>12. 図書・叢書の探索</td> </tr> <tr> <td>3. レファレンスサービスのプロセスと方法</td> <td>8. 物と事項の探索</td> <td>13. 新聞・雑誌とその記事の探索</td> </tr> <tr> <td>4. レファレンスツールの種類と特徴</td> <td>9. 地理・地名情報の探索</td> <td>14. 各種データベース情報の探索</td> </tr> <tr> <td>5. レファレンスインタビューの技術</td> <td>10. 人物・団体機関名の探索</td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table> <p>【テキスト】 毎回レジュメを配布する。</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 本講義では、印刷媒体による参考図書やその他の情報源の利用を用いたレファレンス質問への回答処理の演習を通して、実践的な能力の育成をはかります。回答を出すことよりも、どのようなレファレンスブックを使用したのか、参考調査の回答までのプロセスを身に付けるようにしてください。</p> <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 受講態度（満60点）と試験（満40点）を合計した点数で評価を行う。 * 受講態度には各回の授業に出席したことでつく原点到、授業への積極的な貢献をした場合には加点を、他の方（教員を含む）に迷惑となるような行為をした場合には減点をする。なお、レポートの提出状況による（完成度・内容・プロセスを含む）点数も総合的に判断し、評価する。 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。 3) 課題未提出者には単位を認めない。 							1. 図書館における情報サービスとは	6. ことば・成句の情報源について解説	11. 中間復習及び小テスト	2. レファレンスサービスの概要	7. 歴史・日時情報の探索	12. 図書・叢書の探索	3. レファレンスサービスのプロセスと方法	8. 物と事項の探索	13. 新聞・雑誌とその記事の探索	4. レファレンスツールの種類と特徴	9. 地理・地名情報の探索	14. 各種データベース情報の探索	5. レファレンスインタビューの技術	10. 人物・団体機関名の探索	15. まとめ
1. 図書館における情報サービスとは	6. ことば・成句の情報源について解説	11. 中間復習及び小テスト																			
2. レファレンスサービスの概要	7. 歴史・日時情報の探索	12. 図書・叢書の探索																			
3. レファレンスサービスのプロセスと方法	8. 物と事項の探索	13. 新聞・雑誌とその記事の探索																			
4. レファレンスツールの種類と特徴	9. 地理・地名情報の探索	14. 各種データベース情報の探索																			
5. レファレンスインタビューの技術	10. 人物・団体機関名の探索	15. まとめ																			

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80090	80091 ～92	情報サービス演習B	1	新藤 透	前期(91) 後期(92)	

【達成目標】

図書館司書として、情報探索能力の基礎を身につけてもらうことを目的とする。

【授業内容・方法】

図書館における情報サービスの提供において必要な「情報を探す力」を身に付けることを目的とする。特に、コンピュータやデジタル情報資源を対象とする情報検索の実際について演習し、情報検索技術や能力を習得する。

【授業計画】

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. オリエンテーション | 8. 図書情報の検索法② |
| 2. 「情報」とはなにか | 9. 図書情報の検索法③ |
| 3. 情報検索の基礎知識 | 10. 雑誌記事の検索法① |
| 4. 検索式、検索方法 | 11. 雑誌記事の検索法② |
| 5. データベースの種類① | 12. 新聞記事の検索法① |
| 6. データベースの種類② | 13. 新聞記事の検索法② |
| 7. 図書情報の検索法① | 14. ネット検索について① |
| | 15. ネット検索について② |

【テキスト】

Blog 参照

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

積極的に授業に臨んでもらいたい。

【評価方法】

数回の演習課題の全提出。全て提出されなければ「不可」となります。必ず三分の二以上出席すること。複数回のレポート(70%)、授業への参加度(30%)

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80100		図書館情報資源概論	2	松林麻実子	集中 (9月)	

【達成目標】

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。特に、図書館が密接な関わりを持つ出版流通業界、近年存在感を増しているネットワーク情報資源や電子出版については、最新の動向を踏まえつつ、詳述する。

【授業内容・方法】

【授業計画】

以下のトピックについて、それぞれ2～3時間かけて詳説する。

1. 図書館情報資源の類型と特質
2. 商業出版と図書館との関わり（出版流通制度、電子出版など）
3. コレクション形成の理論と実践
4. 人文社会、科学技術分野の情報資源

【テキスト】

テキストは特に指定せず、毎時間レジュメを配布する。

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

主たる評価は試験で行いますが、単に専門用語等を覚えるだけでなく、図書館情報資源にどのような可能性があり、克服すべき課題があるのか、を考えながら授業に臨んでください。

【評価方法】

試験（70%/論述式）と授業への参加度（30%）から成績判定を行う。ただし、出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は、試験の受験自体を認めないので、注意すること。

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放																
80110		情報資源組織論	2	新藤 透	後期																	
<p>【達成目標】 膨大な数に上る図書館資料を一定の法則に基づいて整理し、図書館利用者の利便性を高めることは、図書館員としての責務である。本講義では、図書館資料を分類整理する際の基礎的な知識を身に付けて貰うことを目的とする。</p> <p>【授業内容・方法】 講義形式で行い、適宜、ナマの図書館資料を回覧して受講生の理解を深めたい。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 情報資源とは何か</td> <td>9. 『日本目録規則』による書誌記述法の概要</td> </tr> <tr> <td>2. 情報資源の目録作成と分類の意義</td> <td>10. 様々な分類法の歴史と概要</td> </tr> <tr> <td>3. 書誌コントロールの定義と対象</td> <td>11. 『日本十進分類法』の歴史と内容</td> </tr> <tr> <td>4. 書誌コントロールとメタデータ</td> <td>12. 『日本十進分類法』による分類法の概要</td> </tr> <tr> <td>5. 書誌ユーティリティと JAPAN MARC</td> <td>13. 『基本件名標目標』とシソーラス①</td> </tr> <tr> <td>6. OPAC の概要</td> <td>14. 『基本件名標目標』とシソーラス②</td> </tr> <tr> <td>7. 様々な書誌記述法の歴史と概要</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 『日本目録規則』の歴史と内容</td> <td></td> </tr> </table> <p>【テキスト】 プリント配布</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 積極的に授業に臨んでほしい。</p> <p>【評価方法】 テスト(80%)、授業への参加度(20%)。</p>							1. 情報資源とは何か	9. 『日本目録規則』による書誌記述法の概要	2. 情報資源の目録作成と分類の意義	10. 様々な分類法の歴史と概要	3. 書誌コントロールの定義と対象	11. 『日本十進分類法』の歴史と内容	4. 書誌コントロールとメタデータ	12. 『日本十進分類法』による分類法の概要	5. 書誌ユーティリティと JAPAN MARC	13. 『基本件名標目標』とシソーラス①	6. OPAC の概要	14. 『基本件名標目標』とシソーラス②	7. 様々な書誌記述法の歴史と概要	15. まとめ	8. 『日本目録規則』の歴史と内容	
1. 情報資源とは何か	9. 『日本目録規則』による書誌記述法の概要																					
2. 情報資源の目録作成と分類の意義	10. 様々な分類法の歴史と概要																					
3. 書誌コントロールの定義と対象	11. 『日本十進分類法』の歴史と内容																					
4. 書誌コントロールとメタデータ	12. 『日本十進分類法』による分類法の概要																					
5. 書誌ユーティリティと JAPAN MARC	13. 『基本件名標目標』とシソーラス①																					
6. OPAC の概要	14. 『基本件名標目標』とシソーラス②																					
7. 様々な書誌記述法の歴史と概要	15. まとめ																					
8. 『日本目録規則』の歴史と内容																						

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放						
80120		情報資源組織演習	2	新藤 透	通年							
<p>【達成目標】 この授業は、図書館資料を分類し、目録を作成する基礎を演習を通して実際に身につけてもらうことを目的とする。分類とは分類記号を付与することを意味し（情報資源分類法）、目録とはカード目録を作成（情報資源目録法）することである。</p> <p>【授業内容・方法】 講義・演習形式で行い、適宜、ナマの図書館資料を回覧して受講生の理解を深めたい。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>(前期)</td> <td>(後期)</td> </tr> <tr> <td>1～15 目録法</td> <td>16～30 分類法</td> </tr> <tr> <td>※『日本目録規則』1987年版改訂3版を用い、カード目録記述の演習を中心に行なう。</td> <td>※『日本十進分類法』新訂9版を用い、図書分類の演習を中心に行なう。</td> </tr> </table> <p>【テキスト】 前期は、新藤透『情報資源組織目録法演習』改訂版，誠道書店，2015. 定価 1000 円 後期は、新藤透『情報資源組織分類法演習』改訂版，誠道書店，2015. 定価 1000 円 (参考文献)『日本目録規則』1987年版改訂3版、『日本十進分類法』新訂9版</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 各自積極的に臨むようにしてください。</p> <p>【評価方法】 前後期末テスト（前期末、後期末試験の点数を合計して2で割った点数を元に判定，80%）、授業への参加度(20%)。</p>							(前期)	(後期)	1～15 目録法	16～30 分類法	※『日本目録規則』1987年版改訂3版を用い、カード目録記述の演習を中心に行なう。	※『日本十進分類法』新訂9版を用い、図書分類の演習を中心に行なう。
(前期)	(後期)											
1～15 目録法	16～30 分類法											
※『日本目録規則』1987年版改訂3版を用い、カード目録記述の演習を中心に行なう。	※『日本十進分類法』新訂9版を用い、図書分類の演習を中心に行なう。											

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放																					
80130		文献情報学	2	新藤 透	前期																						
<p>【達成目標】 図書館司書として、または一般教養として日本書誌学と図書館史の基礎知識を身につけて貰うことを目標とする。</p> <p>【授業内容・方法】 本講義では、図書・図書館の歴史と図書館情報資源としての和本の活用について学習し、受講生に前近代資料に関心を持たせることを目標とする。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>8. 近代日本の図書と図書館</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>2. 西洋古代・中世の図書と図書館</td> <td>9. 和本の構造①大きさと装丁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 市民革命と図書館</td> <td>10. 和本の構造②表紙と外題・内題、前付と後付</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. アメリカの図書館の歴史</td> <td>11. 和本の構造③本文（ほんもん）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 古代日本の図書図書館</td> <td>12. 和本の構造④刊記と奥書、書入・蔵書印</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 日本近世の図書と出版</td> <td>13. 国文学研究と書誌学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 日本近世の「図書館」</td> <td>14. 日本史学研究と書誌学</td> <td></td> </tr> </table> <p>【テキスト】 プリント配布</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 江戸期の和本を実際に触って貰います。破かないように気をつけましょう。</p> <p>【評価方法】 レポート（70%）、授業への参加度（30%）。</p>							1. オリエンテーション	8. 近代日本の図書と図書館	15. まとめ	2. 西洋古代・中世の図書と図書館	9. 和本の構造①大きさと装丁		3. 市民革命と図書館	10. 和本の構造②表紙と外題・内題、前付と後付		4. アメリカの図書館の歴史	11. 和本の構造③本文（ほんもん）		5. 古代日本の図書図書館	12. 和本の構造④刊記と奥書、書入・蔵書印		6. 日本近世の図書と出版	13. 国文学研究と書誌学		7. 日本近世の「図書館」	14. 日本史学研究と書誌学	
1. オリエンテーション	8. 近代日本の図書と図書館	15. まとめ																									
2. 西洋古代・中世の図書と図書館	9. 和本の構造①大きさと装丁																										
3. 市民革命と図書館	10. 和本の構造②表紙と外題・内題、前付と後付																										
4. アメリカの図書館の歴史	11. 和本の構造③本文（ほんもん）																										
5. 古代日本の図書図書館	12. 和本の構造④刊記と奥書、書入・蔵書印																										
6. 日本近世の図書と出版	13. 国文学研究と書誌学																										
7. 日本近世の「図書館」	14. 日本史学研究と書誌学																										

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放										
80210		学校経営と学校図書館	2	杉山 悦子	集中 (9月)											
<p>【達成目標】 司書教諭講習科目の総論的性格を担う当科目では、学校図書館の歴史や制度的理解、および実質的運営のための方法を修得し、教育における学校図書館の専門性への理解を目標とする。</p> <p>【授業内容・方法】 まず学校図書館の基本概念を学習し、これからの教育に必要な図書館像を考察する。授業では、講義内容やディスカッションから得られたことを各自でレポートし、考えを深めていく。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 教育の課題と学校図書館</td> <td>6. 特別なニーズと学校図書館</td> </tr> <tr> <td>2. 歴史にみる学校図書館の理念</td> <td>7. 知識情報社会における学校図書館のあり方①②</td> </tr> <tr> <td>3. 学校図書館の制度的背景と構造</td> <td>8. 学校図書館メディア選択の基本概念①②</td> </tr> <tr> <td>4. 教育活動としての学校図書館運営①②③</td> <td>9. 学校図書館運営における「人」の連携</td> </tr> <tr> <td>5. 読書活動における学校図書館の機能</td> <td>10. 各機関とのネットワークと学校図書館の未来①②</td> </tr> </table> <p>【テキスト】 プリントを配布する。</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 この授業では、学校図書館の諸問題を認識し、解決するために何が必要かを考え、他者に伝達することを目指します。地域の図書館等を普段から利用し、疑問に思うこと等を書きとめておきましょう。</p> <p>【評価方法】 授業への参加度（コメントシート 40%、発表・ワークシート 30%）と試験（30%）とで総合的に評価する。</p>							1. 教育の課題と学校図書館	6. 特別なニーズと学校図書館	2. 歴史にみる学校図書館の理念	7. 知識情報社会における学校図書館のあり方①②	3. 学校図書館の制度的背景と構造	8. 学校図書館メディア選択の基本概念①②	4. 教育活動としての学校図書館運営①②③	9. 学校図書館運営における「人」の連携	5. 読書活動における学校図書館の機能	10. 各機関とのネットワークと学校図書館の未来①②
1. 教育の課題と学校図書館	6. 特別なニーズと学校図書館															
2. 歴史にみる学校図書館の理念	7. 知識情報社会における学校図書館のあり方①②															
3. 学校図書館の制度的背景と構造	8. 学校図書館メディア選択の基本概念①②															
4. 教育活動としての学校図書館運営①②③	9. 学校図書館運営における「人」の連携															
5. 読書活動における学校図書館の機能	10. 各機関とのネットワークと学校図書館の未来①②															

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放																
80220		学校図書館 メディアの構成	2	新藤 透	後期																	
<p>【達成目標】 学校図書館とは、小中高の児童・生徒と教員に対して資料提供を行う施設であり、司書教諭はその管理運営を行う「専門職」である。近年、図書館は情報メディアセンターとしての役割が期待されており、学校図書館といえども例外ではない。本講義では司書教諭としてメディア提供を行う際の基礎知識を講義する。</p> <p>【授業内容・方法】 講義形式で行い、適宜、ナマの学校図書館資料を回覧する。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>9 図書選択論の歴史と現状</td> </tr> <tr> <td>2 学校図書館メディア構成の視点</td> <td>10 蔵書評価と蔵書と更新</td> </tr> <tr> <td>3 学校図書館メディア構成の種類と特性①印刷メディア</td> <td>11 図書の受入・装備・排架</td> </tr> <tr> <td>4 学校図書館メディア構成の種類と特性②視聴覚メディア</td> <td>12 分類法①</td> </tr> <tr> <td>5 学校図書館メディア構成の種類と特性③電子メディア</td> <td>13 分類法②</td> </tr> <tr> <td>6 学校図書館メディア構成の種類と特性④特別支援メディア</td> <td>14 目録法①</td> </tr> <tr> <td>7 学校図書館メディア構成の種類と特性⑤その他のメディア</td> <td>15 目録法②</td> </tr> <tr> <td>8 収集方針・除籍基準</td> <td></td> </tr> </table> <p>【テキスト】 緑川信之編『学校図書館メディアの構成』第二版（学文社、2008）定価 1800 円＋税</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 受講生には積極的に授業に臨んでほしいと思います。</p> <p>【評価方法】 テスト（80%）、授業への参加度（20%）</p>							1 オリエンテーション	9 図書選択論の歴史と現状	2 学校図書館メディア構成の視点	10 蔵書評価と蔵書と更新	3 学校図書館メディア構成の種類と特性①印刷メディア	11 図書の受入・装備・排架	4 学校図書館メディア構成の種類と特性②視聴覚メディア	12 分類法①	5 学校図書館メディア構成の種類と特性③電子メディア	13 分類法②	6 学校図書館メディア構成の種類と特性④特別支援メディア	14 目録法①	7 学校図書館メディア構成の種類と特性⑤その他のメディア	15 目録法②	8 収集方針・除籍基準	
1 オリエンテーション	9 図書選択論の歴史と現状																					
2 学校図書館メディア構成の視点	10 蔵書評価と蔵書と更新																					
3 学校図書館メディア構成の種類と特性①印刷メディア	11 図書の受入・装備・排架																					
4 学校図書館メディア構成の種類と特性②視聴覚メディア	12 分類法①																					
5 学校図書館メディア構成の種類と特性③電子メディア	13 分類法②																					
6 学校図書館メディア構成の種類と特性④特別支援メディア	14 目録法①																					
7 学校図書館メディア構成の種類と特性⑤その他のメディア	15 目録法②																					
8 収集方針・除籍基準																						

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放																
80230		学習指導と学校図書館	2	伊藤 弘昭	集中 (2月)																	
<p>【達成目標】 学校図書館の利用指導、学習指導における学校図書館メディアの活用についての基本的理解と具体的な方法を、各教科科目との連携を中心に学習する。</p> <p>【授業内容・方法】</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 教育課程と学校図書館</td> <td>6. 学習指導における学校図書館の利用</td> </tr> <tr> <td>2. 学校図書館における利用指導の意義・目的</td> <td>・各教科学習の展開と学校図書館（学習指導要領を中心に）</td> </tr> <tr> <td>3. 発達段階に応じた学校図書館メディアの構成</td> <td>・調べ学習と学校図書館の活動（児童生徒の図書館利用を中心に）</td> </tr> <tr> <td>4. 学校図書館の利用指導の領域と内容</td> <td>・特設時間における利用指導</td> </tr> <tr> <td>5. 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成と方法</td> <td>7. 学習課程における学校図書館メディア活用の実際</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・各教科学習と学校図書館メディア（代表的参考図書理解等）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8. 情報サービス（レファレンスサービス等）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9. 教員への支援及び他教員との連携</td> </tr> </table> <p>【テキスト】 プリント等配布</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 ビデオ等視聴覚教材をできるだけ用いて具体的な理解ができるようころがけますが、学生のみならずも図書館を利用する機会を増やし、図書館の理解を深めるようにしてください。</p> <p>【評価方法】 授業内で課題を指示。最後に各自でそれについてまとめてもらう。</p>							1. 教育課程と学校図書館	6. 学習指導における学校図書館の利用	2. 学校図書館における利用指導の意義・目的	・各教科学習の展開と学校図書館（学習指導要領を中心に）	3. 発達段階に応じた学校図書館メディアの構成	・調べ学習と学校図書館の活動（児童生徒の図書館利用を中心に）	4. 学校図書館の利用指導の領域と内容	・特設時間における利用指導	5. 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成と方法	7. 学習課程における学校図書館メディア活用の実際		・各教科学習と学校図書館メディア（代表的参考図書理解等）		8. 情報サービス（レファレンスサービス等）		9. 教員への支援及び他教員との連携
1. 教育課程と学校図書館	6. 学習指導における学校図書館の利用																					
2. 学校図書館における利用指導の意義・目的	・各教科学習の展開と学校図書館（学習指導要領を中心に）																					
3. 発達段階に応じた学校図書館メディアの構成	・調べ学習と学校図書館の活動（児童生徒の図書館利用を中心に）																					
4. 学校図書館の利用指導の領域と内容	・特設時間における利用指導																					
5. 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成と方法	7. 学習課程における学校図書館メディア活用の実際																					
	・各教科学習と学校図書館メディア（代表的参考図書理解等）																					
	8. 情報サービス（レファレンスサービス等）																					
	9. 教員への支援及び他教員との連携																					

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放																		
80240		読書と豊かな人間性	2	千 錫烈	集中 (2月)																			
<p>【達成目標】 乳幼児や青少年は成人とは異なり、その年齢・発達段階に合わせたきめ細かいサービスを提供しなければならない。本科目では、子どもの心身の発達や年齢によって異なる読書心理についての基礎知識を理解した上で、児童サービスの意義、方法、実際を理解することを目標とする。</p> <p>【授業内容・方法】 本講義では、子どもにとっての読書の意義を児童サービスの歴史や読書心理を概観しながら明確にしていく。「読み聞かせ」や「ブックトーク」などの具体的なサービス方法についても演習を通じて学んでいく。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 児童サービスの意義と役割</td> <td>6. 児童資料①絵本・児童文学</td> <td>11. 「ストーリーテリング」</td> </tr> <tr> <td>2. 児童サービスの歴史の変遷</td> <td>7. 児童資料②知識の本・レファレンス資料</td> <td>「パネルシアター」</td> </tr> <tr> <td>3. 子どもの発達と読書</td> <td>8. 児童資料の選書基準と組織化</td> <td>12. 演習：お話会</td> </tr> <tr> <td>4. 子どもの読書の現状と読書の効用</td> <td>9. 児童コレクションの形成</td> <td>13. 広報活動としての「ブックスタート」</td> </tr> <tr> <td>5. 児童サービスの種類と内容</td> <td>10. 「読み聞かせ」「ブックトーク」</td> <td>14. 学校・学校図書館との連携・協力</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15. 「ヤングアダルトサービス」</td> </tr> </table> <p>【テキスト】 レジメを配布するため、テキストは指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。</p> <p>【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】 講義だけではなく、グループディスカッションやDVDの観賞や「読み聞かせ」の演習なども行っていただくので積極的に参加してほしい。</p> <p>【評価方法】 授業への参加度（30%）、授業中のミニレポート（30%）、最終レポート（40%）</p>							1. 児童サービスの意義と役割	6. 児童資料①絵本・児童文学	11. 「ストーリーテリング」	2. 児童サービスの歴史の変遷	7. 児童資料②知識の本・レファレンス資料	「パネルシアター」	3. 子どもの発達と読書	8. 児童資料の選書基準と組織化	12. 演習：お話会	4. 子どもの読書の現状と読書の効用	9. 児童コレクションの形成	13. 広報活動としての「ブックスタート」	5. 児童サービスの種類と内容	10. 「読み聞かせ」「ブックトーク」	14. 学校・学校図書館との連携・協力			15. 「ヤングアダルトサービス」
1. 児童サービスの意義と役割	6. 児童資料①絵本・児童文学	11. 「ストーリーテリング」																						
2. 児童サービスの歴史の変遷	7. 児童資料②知識の本・レファレンス資料	「パネルシアター」																						
3. 子どもの発達と読書	8. 児童資料の選書基準と組織化	12. 演習：お話会																						
4. 子どもの読書の現状と読書の効用	9. 児童コレクションの形成	13. 広報活動としての「ブックスタート」																						
5. 児童サービスの種類と内容	10. 「読み聞かせ」「ブックトーク」	14. 学校・学校図書館との連携・協力																						
		15. 「ヤングアダルトサービス」																						

科目コード	授業コード	科目名	単位	担当者	開講	開放
80250		情報メディアの活用	2	孫 誌銜	後期	

【達成目標】

本講義では、情報メディアの全体像を把握しながら、その中でも特に、視聴覚メディア、電子メディアに焦点をあてて、その特性と利用法についてとりあげる。また、高度情報化社会が内包する問題点についてもふれ、情報を批判的に読み取る力の必要性や、守られるべき情報倫理など、情報活用能力の重要性を明らかにする。

【授業内容・方法】

【授業計画】

- | | | |
|-------------------|-----------------------|---------------|
| 1. 情報メディアのとは | 7. コンピュータを用いた演習 (1) | 11. 情報検索 (1) |
| 2. 高度情報化社会と人間 | 8. コンピュータを用いた演習 (2) | 12. 情報検索 (2) |
| 3. 情報メディアの歴史 | 9. 情報リテラシーとメディア・リテラシー | 13. 著作権・知的所有権 |
| 4. 各種メディアの分類とその特性 | 10. 学校の情報化 | 14. 情報倫理 |
| 5. コンピュータの発達 | | 15. プレゼンテーション |
| 6. インターネットの普及 | | |

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。参考書：情報メディアの活用と展開（中山伸一編著）青弓社 2009

【受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）】

情報メディアのフル活用によって教育的サービスを展開するための実践的基礎知識を習得することを目標にします。

【評価方法】

- 1) レポートの提出状況（課題発表、完成度を含む）（60%）、平常点（受講態度、出席率を含む）（40%）の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。
- 3) 課題未提出者には単位を認めない。